

礼拝プログラム ※主の導きにより変わる事があります

黙祷	ルカ 17:5-6	……	御言葉に耳を傾け心を主に向けましょう。
*賛美	……	53番	
*交読文	……	14番	
*使徒信条	……	会衆一同	
*頌栄	……	175番	
礼拝のための祈り	……	1部:渡辺和歌子 働き人 2部:小林美之 働き人	
賛美	……	399番	
聖餐式	……	281番	
メッセージ	……	生ける神の陣を呼び込んだダビデ(1サムエル記 17:1-37)	
御言葉を適用する祈り	……	会衆一同	
賛美	……	396番	
献金感謝の祈り	……	パスター	
*主の祈り	……	会衆一同	
*祝祷	……	パスター	

天声教会は

- ・御言葉なる主の御声を忠実に聞く教会。(ヨハネ 1:1、マタイ 3:17、17:5)
- ・主の御言葉を心で信じて義に至る教会。(ローマ 10:10)
- ・全能なる主の御言葉を口で告白し、救いに至る教会。(ローマ 10:10)
- ・受けた恵みを愛と忍耐をもって実践する教会。(テサロニケ 3:5)

祝福の御言葉(下線にご自身のお名前を入れて宣言して下さい)

敵を攻めるために出て陣営におる時は、すべての汚れた物を避けなければならない。… の神、主が を救い、敵を に渡そうと、陣営の中を歩まれるからである。故に陣営は聖なる所として保たなければならない。主が の内にきたない物のあるのを見て離れ去られる事のないためである。(申命記 23:9-13)

 もかつては彼らの中において、肉の欲に従って日を過ごし、肉とその思いとの欲するままを行い、ほかの人々と同じく、生れながらの怒りの子であった。しかるに、あわれみに富む神は、 を愛して下さったその大きな愛をもって、罪過によって死んでいた を、キリストと共に生かし—— の救われたのは、恵みによるのである——キリスト・イエスにあって、共によみがえらせ、共に天上で座につかせて下さったのである。(エペソ 2:1-6)

前々回、ダビデや信仰の先人達が皆経験した「羊飼い」という性質の重要性を見たが、今回は、偉大な王へと成長して行くダビデが、いかに常人とは違った「神の国の考え方」を持っていたかを見たい。

イスラエルにペリシテが攻めてきた時、ペリシテの代表戦士・ゴリヤテが一騎打ちを申し出て来た。彼は巨人アナクの子孫で、身長 286cm、鎧は 57kg、投げ槍は穂先だけでも 7kg。彼は言った。一騎打ちする者を出せ、自分を倒せたらお前達の奴隷となってやる、もし自分が勝ったら、お前達が奴隷となれ、と。人々は彼を恐れ、40日間何も出来ず、いよいよ言われる屈辱の日々を送った。モーセの時代も、アナク人はイスラエルに畏となった。当時もイスラエルはアナク人を恐れ、約束の地に入る事を拒み、40年の荒野生活を強いられたが、今回もサウル王をはじめ、イスラエルの人々は恐れ、40日、右往左往していた。

ゴリヤテは上上段から、一方的に、彼が決めたルールを押し付けているが、世の、主を敬う事の無い「無割礼の」、上上段な力強い言葉を鵜呑みにするなら、意気消沈し、ただなぶりものにされるだけである。私達も、目の前に立ちただかる「現実」「世情」といったゴリヤテの巨大さ・力強そうな有り様を見て、恐れたり、無割礼の者が発信して来る諸々の情報に振り回されてなぶりものにされていないだろうか。

ゴリヤテは「お前達はサウルの奴隷ではないか」と言った。イスラエルの戦士達は、万軍の主のしもべであり、主にあつて何者にも勝利するはずである。それなのに皆、ゴリヤテの言葉を鵜呑みにして、神のしもべではなく、恐々なサウルのしもべになってしまっている。世に流れている無割礼のことばは、社会やメディアを通じて私達にもレッテルを張ってくる。「おまえは社会の奴隷ではないか、**会社の奴隷ではないか、おまえは年取**になって、あれとこれを手に入れないなら、おまえの人生は終わりだ」などと。無割礼のことば、無割礼の強大な者に勝利する秘訣は、真理の言葉を、信仰を混ぜて宣言する事である。

ゴリヤテを打ち倒したダビデは、どうだったか。彼は、父の羊を飼う、紅顔の美少年だった。体重はゴリヤテの鎧ほどにも満たなかったろうし、父の家でも、軽んじられていたが、彼がゴリヤテの言動を見た時、憤りに満たされ、言った。「この割礼なきペリシテびとは何者なので、生ける神の軍をいどむのか。」(26節)

他の大人達はゴリヤテの外見や装備を見て恐れたが、ダビデには一切眼中に無く、ただの「無割礼の者」だとし、それに対して自分達は「生ける神の陣」として、「真理の立場」を表明した。偽りの者や割礼無き世の者が大げさに迫って来る時、私達は真理の言葉を信仰を混ぜ込んで宣言するのだ。世の中は、私達神の民が真理を宣言し、真理の御言葉に従う時、霊的世界が動き、そして現実世界も動き出すのだから。

ダビデが宣言した「生ける神の陣」とはどういうものだろう。申命記 23:9-13 に記されている。生ける神の陣営は、聖なる所、聖なるお方が歩まれる場所である。『ゆえに陣営は聖なる所として保たなければならない。主があなたの内に汚い物のあるのを見て、離れ去られる事のないためである。』(申 23:14)

ダビデは、聖なる主のために清く保つべき所を、汚れた者に好き放題させていた人達にも憤りを覚えただろう。私達も人生の中、家庭の中に、きよい主を呼びこむためには、自分をきよく保つべきだ。そして、聖なるお方が宿るべき所を、無割礼の者が好き放題にして汚しているのを見たなら、大いに憤るべきだ。

ダビデの長男エリアブは、末っ子・ダビデが、陣営の中で色々な人と話しているのを見て、責めた。年長者の身内が、信仰を挫く事を言って来る時、結構、折れやすかったりするが、ダビデは全く動じなかった。

サウル達もエリアブも信仰が無かったため、「神の陣」ですらなかったが、ダビデは信仰によって、たった一人で「生ける神の陣」を張ったのだ。生ける神の陣が一人でも張られるなら、勝利の主が戦われる。

サウルがダビデを呼び寄せた時、ダビデは、自分が行ってあのゴリヤテを討ち取って来る、と云った。サウルは、羊飼いの少年が根拠の無い全能感に駆られ大ごとを言っている、と思ったかもしれないが、根拠はあるのだ。彼は父の羊を飼っている時、ライオンや熊が、羊をさらって行こうとしたのを追いかけて、撃ち殺したのだ。彼は誰も見向きもしない羊飼いの仕事をしている間、王の性質と力と信仰を学んでいたのだ。

ダビデは、自分には獅子や熊を殺す力があるぞ、ではなく、獅子や熊から羊を救い出す力を与えて下さった主が、勝利をもたらして下さる、と、信仰告白をした。あくまで主の力こそ、勝利の鍵なのだ。

私達も、目の前に、世の強者が立ちただかる時、真理の立場を表明し、生ける神の陣を張るべきである。その時、勝利の主が戦いに立たれ、世の無割礼の敵は、この万軍の主の御前に倒されて行くのだ。

横浜天声キリスト教会

礼拝 週報



集会案内

各礼拝はインターネットでライブ中継しております → youtube.com/c/横浜天声キリスト教会

日曜礼拝

1部礼拝 10:30 賛美 11:00 礼拝
食事/フェローシップ/賛美 12:30~
2部礼拝(韓国語通訳有) 14:00

金曜徹夜祈祷会 21:00~

日々の集会

月~金 早天祈祷会 5:00~
火・木・金 賛美と祈りの集会 13:00~
火~木 夜の祈祷会 19:30~

水曜礼拝

1部 13:00~
2部 19:30~

アクセス

横浜市営地下鉄・伊勢佐木長者町駅
6番B出口を出てまっすぐ徒歩5分
JR・関内駅より徒歩10分
京急線・日ノ出町駅より徒歩10分

関内駅から伸びる大通公園沿い、
伊勢佐木警察署の向かい対角線上にあり、
1Fがファミリーマートになっております。



聖書メッセージを携帯で
聖書メッセージをメールで
毎日携帯にお届けします。
左記コードを読み込み、
空メールを送信するだけ！



〒231-0058

パスター: 林和也

神奈川県横浜市中区弥生町2-17 ストックタワー大通公園 I-201
TEL/FAX: 045-326-6211

Homepage: <http://voh.plala.jp/>

email: ephes_03-tensei@yahoo.co.jp



YouTube